「友松」の変遷 Ⅱ

2011.1.6　発行
シリーズ　2−7
「友松」41 号

（1）　第41号　友松会報　昭和31年9月10日

当面する諸問題　会長 小林梅茂（大四年卒）

◇役員総改選
友松会会則により昭和三十一年度の役員の総改選が行われている。ことに新役員各位の友松会への熱意をお願いし、併せて会員諸氏の御支援を懇願する。

◇再び教員養成機関の在り方について
教育の現場を知しむる教員養成機関の在り方を教育者自身としては大いに考えなければならぬ。

◇母校の実情
母校芸学部教官中には教員養成機関の在り方を教育者自身としては大いに考えなければならぬ。

◇女子部五十年
昭和五十年行事及び組織沿革について大綱の概略を記しておかず、各部の行事を後に回す。

剃刀の刃　客員 松原益太（信州大学教育学部長）

私は友松会の会員として後輩達に「早く、やっかいになったお方々にお礼をいう者」と言われますが、「早く」は、何のお役にもたつておりません。

学生を相手に取り出して教育者として、「教員養成機関の在り方」を考えていくことを強く要望していく。

今と昔の教育実習　客員 原弘道（学芸学部附属横浜小・中学校長）

これからの恩給問題　神奈川県退職公務員退職会長 西川豊吉（明四〇年卒）

昭和三十一年九月十日の「友松会報」

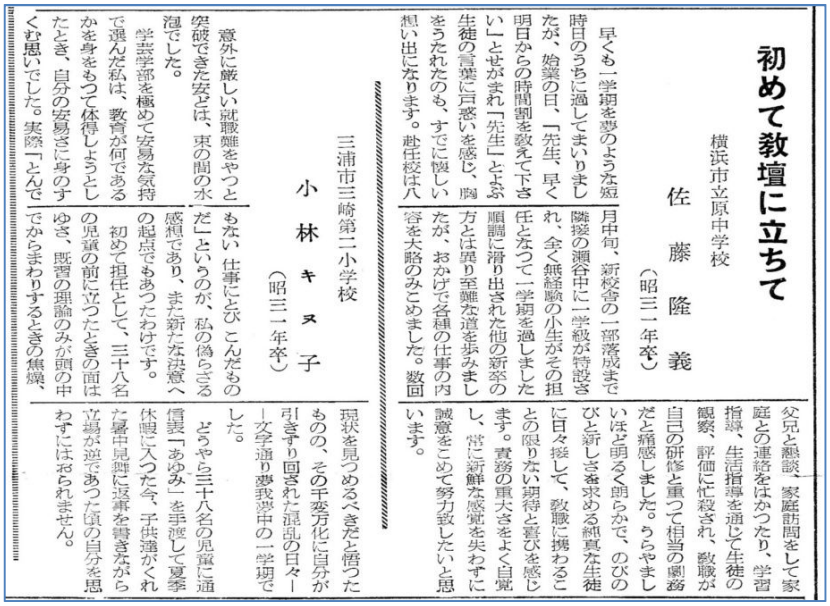
昭和三十一年、役員の総改選が行われる予定だったが、人事一新が容れられず人事は再選と決まった。

当時の問題は、前号でも取り上げていた「教員養成機関の在り方」で、友松会としても「母校を教員養成機関としての、専門的な学校にしていくことを強く要望していく」ということを考えていたようである。

母校の実情は、教官の中に、「教員養成を念としておられる教官も多数いる」と書かれている一方、「教員養成を目的としてはいないと高言している者も多数いる」と書かれている。既に学芸学部として発足して半年余り経っているのに学部長さえ決まっていなかったという。

右の記事は、昭和３１年に卒業した、佐藤氏と小林氏の「初めて教壇に立ちて」という所感である。

当時は、なかなかの就職難であったということが読み取れる。


初めて教壇に立ちて

横浜市立原中学校　佐藤隆義（昭三一年卒）

早くも一学期を夢のような短時日のうちに過してまいりましたが、始業の日、「先生、早く明日からの時間割を教えて下さい」とせがまれ「先生」とよぶ生徒の言葉に戸惑いを感じ、胸をうたれたのも、すでに懐しい想い出になります。赴任校は八月中旬、新校舎の一部落成まで隣接の瀬谷中に一学級が特設され、全く無経験の小生がその担任を仰つて一学期を過しました。順調に滑り出された他の新卒の方とは異り至難な道を歩みましたが、おかげで各種の仕事の内容を大略のみこめました。数回父兄と懇談、家庭訪問をして家庭との連絡をはかったり、学習指導、生活指導を通じて生徒の観察、評価に忙殺され、教職が自己の研修と重って相当の勤務だと痛感しました。ちらちらいはほど明るく朗らかで、のびのびと新しさを求める純真な生徒に日々接して、教職に携わることの限りない期待と喜びを感じます。責務の重大さをよく自覚し、常に新鮮な感覚を失わずに誠意をこめて努力致したいと思います。

意外に厳しい就職難をやっと突破できた安堵は、束の間の水泡でした。

学芸学部を極めて安易な気持で選んだ私は、教育が何であるかを身をもって体得しようとしたとき、自分の安易さに身のすくむ思いでした。実際「とんでもない　仕事にとび　こんだもの　だ」というのが、私の偽らざる感想であり、また新たな決意への起点でもあったわけです。

初めて担任として、三十八名の児童の前に立ったときの面はゆさ、既習の理論のみが頭の中でからまわりするときの焦燥、現状を見つめるべきだと悟ったものの、その千変万化に自分が引きずり回された混乱の日々―文字通り夢我夢中の一学期でした。

どうやら三十八名の児童に通信表「あゆみ」を手渡して夏季休暇に入った今、子供達がくれた屋中見舞に返事を書きながら立場が逆であった頃の自分を思わずにはおられません。

三浦市三崎第二小学校　小林キヌ子（昭三一年卒）

友松会は　こんな事業をしている

今後の運動目標

当時の友松会の会費納入会員は、４６５１人である。友松会の事業としては、①会員相互の親睦修養　②会報の発行　③会員名簿の編集　④会員相互の福祉厚生　⑤会員相互の慶弔　⑥母校教育施設の後援　⑦その他、となっている。会費は１人２００円で、現在は無いが入会金を取っている。

【昭和３１年卒業者】

	卒業者	小学校	中学校	その他	進学	未就職
男	199	100	62	9	15	13
女	181	140	26	5	5	5
計	380	240	88	14	20	18

【学芸学部学生数】

学　年		１年	２年	３年	４年	計
定　員		390	320	390	320	1,420
現員	男	195	175	200	264	834
	女	104	86	96	68	354